

あすなと高岡

第 11 号



「理解して努力しよう」



高岡市体育協会

副会長 荒井 武夫

近年は「見るスポーツから参加するスポーツの時代」などと言われていますが、皆さんはどんなスポーツに参加しているのでしょうか。

どんなスポーツも、練習しなければなりません。練習を重ね、技術を「カラダ」で覚えるというのが、スポーツの鉄則です。では「アタマ」は全然使わなくてもいいかというと、ちよつと違うと思います。「カラダ」で覚える一方で、「アタマ」で覚えていくことが、実は大切なのです。

「ビッグスギ」という愛称で呼ばれるプロゴルファーの杉本英世さんは修行時代に「理屈っぽいヤツだと先輩達からもうるさがられたほど」「なぜ」ということを追求したそうです。例えば、先輩に一つの技術を教えられたときに、「なぜそうやるとうまくいくんですか」と、納得がいくまで質問したそうです。

つまり先輩から教えられることを単に鵜呑みにするだけではなく、一度は立ち止まり、アタマで納得してから「カラダ」に覚えさせたのです。

そうすることにより上達を早め、また誰にも負けない自分なりの技術を形づくっていったのです。

杉本プロは現在、プロゴルフ界随一の理論家と言われ、テレビの解説やレッスン番組、レッスン記事などに引つ張りだこです。

私は若い高校生達にいつも言っています。スポーツをするとき、特にトレーニングのとき、「なぜ」と立ち止まり、「アタマ」で考えることなく「カラダ」だけでやっていないかどうか？と。

二〇〇〇年富山国体まであと2年となりましたが、市体協としても、選手層を厚くし、有望選手の育成、競技力向上等にかんばっていききたいと念じております。



ジュニア選手育成事業
水泳とび込み競技の練習会

役員研修会

とき 平成九年十二月
ところ 雨晴ハイツ

二月七日(日)雨晴温泉において定例の理事会と役員研修会が開催された。

〈理事会〉

平成九年度の補正予算・高岡市への要望事項・平成十年度事業計画・第51回市民体育大会の開催期日について審議される。また、体協創立50周年記念事業・平成九年度中学・高校生の全国大会上位入賞者表彰・極楽坂研修センター運営状況などの報告などが主たる内容で行なわれた。

〈役員研修会〉

加盟団体の役員・企業チーム関係者等八十名あまり出席のもと盛会のうちに開かれた。

今回は富山県初の派遣スポーツ主事として高岡市の体育保健課に勤務され、本市の体育・スポーツの振興に大いに寄与され、体協関係者にも同じみであり、現在県国体局次長である圓山達行先生を講師として「二〇〇〇年とやま国体と地域スポーツの振興」のテーマで講演をいただいた。

先生は二〇〇〇年とやま国体を

本県誘致にかかわった一人である。二〇〇〇年という節目の年に開催することは至難であり誘致に大変苦労したことや国体の会場決定にあたっては、市町村の要望を第一に競技団体の要望を第二に考慮して決定したこと、また国体開催の意義としてスポーツ実践の環境づくりであり、スポーツを通して人間づくりに一役を担っていることを強調された。

「二〇〇〇年とやま国体」は本県が目指す日本一のスポーツ県の集大成であり、さらに二十一世紀の国体はどうあるべきかのモデルとしての開催に向け、県民一体となつてがんばらなければならぬ。また、体協関係者に対しても、自信と励ましの内容のお話でもあった。

国体まであと二年とせまった今この機会に国体開催の意義を改めて認識し、国体成功の取組みに向けて邁進したいものです。



受賞おめでとう!!!

去る十二月七日役員研修会の席上において中・高校生の全国大会上位入賞を果たした選手が表彰されました。

◆中学校

○バドミントン

南星中学女子団体

川口 圭介 (南星3年)

山田 能生 (南星3年)

今井 幸代 (南星3年)

江本奈津香 (南星3年)

◆高等学校

○バドミントン

閻 敏娜 (高岡西3年)

清水 隆志 (高岡工2年)

田中 肇 (高岡一3年)

今市 彰 (高岡一3年)

奥村 宏美 (高岡西3年)

幡谷 好美 (高岡西3年)

藤井 真紀 (高岡西2年)

○水泳

野尻奈央子 (新湊3年)

青木 悦子 (高岡商1年)

老子 利雄 (高岡商3年)

○弓道

広田 健一 (高岡工2年)



市体スキー大会開会式

◆市民体育大会

スキー競技

二月一日(日)大山町栗巣野スキー場で開催され、小学生から一般まで98名の選手の参加により、シユプールを描き、力強い競技が展開された。今回よりスノーボードの競技が初めて行なわれ、新種目の魅力もあり、小学生を含め、実にハイレベルの大会であった。

○陸上

山市 絵美 (高岡商3年)

○レスリング

太田 伸介 (高岡一2年)

磯部 剛志 (高岡商3年)

林 賢吉 (高岡商3年)

高岡市体育協会創立50周年

記念講演 記念式典 記念祝賀会

◆とき 平成10年5月23日(土) PM5:00~8:30

◆ところ 槐通り ホテルニューオータニ高岡

1 記念講演 (PM 5:00~6:00)

○演題 「スポーツ人間の魅力……指導は心」

○講師 NHK解説委員

国立鹿屋体育大学客員教授 西田 善夫

○主催 (財)高岡市体育協会

(財)高岡市民スポーツ振興事業団

2 記念式典 (PM 6:30~7:00)

(1)開会のことば

(2)式辞

(3)特別表彰

(4)来賓祝辞

(5)祝電披露

(6)被表彰者代表謝辞

(7)閉会のことば

《記念撮影》

3 記念祝賀会 (PM 7:10~8:30)

(1)開会のことば

(2)開会の挨拶

(3)乾杯

(4)アトラクション

(5)祝宴

(6)万歳三唱

(7)閉会のことば

◆講師紹介



NHK解説委員
国立鹿屋体育大学客員教授

西田 善夫

職歴・経歴

- ・昭和11年生まれ
- ・昭和33年早稲田大学卒業後、NHKに入局
- ・スポーツアナウンサーとして、プロ野球、甲子園の高校野球、オリンピックのバレーボールやアイスホッケーの実況中継で知られた。
- ・オリンピックの放送はサッポロ五輪以来、夏、冬合わせて10回アナウンスしている。
- ・情報番組「サンデースポーツ」のキャスターも勤め、スポーツアナとしては初めて解説委員を兼務
- ・96年退職後もNHK解説委員としてテレビ「おはよう日本」や「ラジオタカ」などの解説番組に出演し、スポーツに関する解りやすい解説で親しまれている。

・国立鹿屋(かのや)体育大学と立教大学などで「生涯スポーツ論」や「メディアとスポーツ」を開講している。

・長野オリンピック組織委員会・広報専門委員

・日本高校野球連盟「21世紀の高校野球を考える会」委員

・スポーツニッポン新聞のコラム「季節風」を隔週木曜日執筆。

著書

- 「オリンピックと放送」丸善ライブラリー
- 「西田善夫のハーftime」徳間書店 など

長野冬季オリンピックピックを終えて

（財）高岡市民スポーツ振興事業団

スポーツ専門員 村田賢俊

この度、第十八回冬季オリンピック競技長野大会に、ボブスレー競技の役員（コーチ）として参加させていただきました。

地元開催ということもあり、本番では上位入賞を」と目標を高く掲げ、オリンピックに向けて活動してまいりました。とりわけ昨年オフには今までにないような強化体制が生まれ、「勝つためには」というテーマのもと、様々な角度からこの奥深い競技を追求してきました。

十月末よりワールドカップを転戦しながら、着実に力と勢いをつけてきた日本チームに、「これでなんとか戦えるかも」という期待を胸に抱いて長野五輪を迎えました。二人乗り、四人乗り共、目標には遠く及ばぬ結果に終り、スタッフ、選手共々がつくりと肩を落としたものです。甘くはない。これがオリンピック、素直な実感です。

「ナガノ」は終わりました。今すでに四年後のソルトレイクシティに向けて世界は動いています。今回の失敗は、長野五輪だけの失敗ではなく、四年後、更には八年後の成功につながるものと私は確信しています。

私も今後、どのような形でこの競技に関わっていくのか、今のところ何とも言えません。近い将来、このボブスレーが子供達に夢を与えるような競技に発展してほしいと心から願うものであり、私自身もそんな夢を追いつづけていきたいと思えます。



ボブスレーチーム強化練習経緯

'97 10 / 19 ~ 11 / 2 海外強化合宿

カルガリー (CAN) ワールドカップ

11 / 3 ~ 11 / 8 WC-1

カルガリー (CAN)

11 / 9 ~ 11 / 18 海外強化合宿

カルガリー (CAN)

11 / 25 ~ 11 / 30 WC-2

ウィンターベルグ (GER)

12 / 9 ~ 12 / 14 WC-3

コルチナ・ダンペッツォ (ITA)

12 / 2 ~ 12 / 7 WC-4

ラ・プラターニュ (FRA)

12 / 19 ~ 12 / 31 国内強化合宿

'98 1 / 13 ~ 1 / 18 WC-5 長野市

インスブルック (AUT)

1 / 20 ~ 1 / 25 WC-6

サンモリッツ (SUI)

1 / 29 選手村入

2 / 2 ~ 2 / 6 国際トレーニング週間

2 / 7 開会式

2 / 8 ~ 2 / 21 14・15 2人乗り大会、20・21 4人乗り大会

2 / 22 閉会式

「なみはや国体」と

本市選手の活躍

（財）高岡市体育協会

事務局長 横山 勲

走って、走って走り回った三日間、ここは、浪速の大阪。「おおさか ふれ愛 夢づくり」

をスローガンに、第五十二回国民体育大会（なみはや国体）秋季大会が十月二十五日から三十日までの六日間、大阪府内一円で開催された。

二〇〇八年夏季五輪の国内候補都市に決まった大阪市を中心に、今大会は史上最多の二万六百人を超える選手、役員が参加した。

本県から総勢四百九名の精鋭が参加し、本市からは二十二競技に昨年より二十一名多い八十一名の監督・選手が出場した。

体育協会事務局五名は大阪市長居陸上競技場を中心として大東市立市民体育館（バドミントン）、堺市立大浜体育館（ハンドボール）等六会場を激励巡回をした。

本市に関係のある選手の成績を概略すると次のようである。

期待されたトナミ運輸バドミントン成年男子チームは強豪埼玉に初戦で敗退したが、同じ競技の成年女子の三協アルミは三位に輝いた。バドミントン少年男子五位。相撲成年男子B個人で犀藤和憲(高岡向陵高教員)が準優勝、レスリングで少年グレコ六十八キロ級の林賢吉(高岡商高)が五位、レスリング成年男子フリー八十二キロ級高橋善孝(宮越工芸)が三位、陸上少年女子共通三千メートル競歩で山市絵美(高岡商高)四位であった。

本県の成績は天皇杯が891点で昨年と同じ二十四位、皇后杯が520点で昨年より順位を二つ上げ十七位に停まった。二〇〇〇年とやま国体に向けた選手強化計画は、昨年度から躍進期に入ったが、秋季大会では「躍進」の成績が、見受けられなかった。

各競技団体はもちろんのこと、関係者は危機感を持って競技力向上に取り組むことが必要であると痛感した。



加盟団体紹介 ⑱

高岡市体操協会

体操競技といえば、床運動や鉄棒での手に汗を握る超ウルトラCの技、華麗な演技、そして華やかなレオタード姿などを思い浮かべる人が多く、競技としての知名度は高い。

本市の体操協会の創設、普及には故北川氏の功績が大きい。氏は昭和23年に伏木中学校に赴任し、翌年、体操部を創設し、その普及に努められた。

市体は昭和26年から開始され、中学の部の競技が開始された。当時の参加校は多いときで男子4校、女子6校が出場していた。成績は伏木中学校が二十数年間優勝を続けた。「体操伏木」の伝統を築いた。

昭和30年代には高校の

部が加わり、市民体育館、高岡工業高校などを会場として競技していたが、参加校の減少により、昭和40年になくなり、再び中学の部のみとなった。

体操協会の礎を築いた北川氏は昭和54年、志半ばにして急逝された。この時期、氏の後を受け継ぐように、教え子である向井氏、能松氏が相次いで高岡西部中、志貴野中に赴任し、指導にあたった。

また、女子の指導者として、山本氏(旧姓 森)、中田氏(旧姓 滝田)が加わったことで、市の競技レベルは一気に高くなり、県大会では常に上位を占めるようになった。志貴野(男)、高西(男)、伏木(女)、芳野(女)とも中学団体の部で優勝している。

市の競技人口は、ここ数年の間に激減し、いくつかの学校が廃部に追い

込まれた。現在、男子は志貴野1校、女子は伏木、志貴野、芳野の3校のみとなっている。二〇〇〇年国体に向け、平成8年度から体操教室を開催し、競技力の向上を図っている。しかし、指導者の不足というのが協会の最大の悩みである。



加盟団体紹介 ⑳

高岡市テニス協会

当協会は、昭和四十三年に高岡市内のテニス愛好者が中心となり、当初は「高岡市庭球協会」として設立され、その後昭和五十七年に名称を「高岡市テニス協会」に改め現在に至っています。

高岡市体育協会へは、昭和四十四年に加盟し、その頃から本格的な協会活動を開始しました。しかしながら、当時は硬式専用のコートも少ない状況で、テニスが一一般の人の目にとまる機会もあまりなく、大会も市民総合体育大会ただ一つという寂しいものでありました。

時代とともに、公営及び民間のテニスコートも徐々に整備されるようになり、それに伴い大会も多く開催できるようになったため、テニス人口も年々増加しております。

特に、平成六年の高岡スポーツコア（テニスコート十六面）

の完成を機に、テニス愛好者が一気に増え、現在、当協会へも二十九団体（サークル）が加盟しております、登録会員も年々増え、四百人を超えるまでになっています。

各サークルは、職場の仲間や気の合った仲間同志の集まり等々で多種多様な構成となっています。サークル間の交流も盛んで、テニスが競技としてだけでなく、社交の場としても大いに活用されており、生涯スポーツとして生活のリズムに欠かせないものになっている方も多く見受けられます。

普及活動としては、昭和五十四年からスクールを年二回程開催するとともに、市主催のテニス教室にも講師を派遣しています。

また、ジュニア（小学生から高校生）を対象にしたスクールも平成六年から行っており、二〇〇〇年国体に向け、ジュニア選手の強化・育成にも力を入れています。

当協会の課題の一つに、指導員の不足がありますが、昨年から協会員を対象に指導方法の講習会を

開催するなどその確保にも努めています。

また、大会参加者も増加の一途をたどり、昨年は延べ約千五百名にも達しており、当協会としても非常に喜ばしい限りですが、今後さらに協会組織の強化・充実を図ることも必要となっています。

まだ歴史の浅い協会ですが、テニスの普及や競技力の向上に今まで以上に取り組んでいきたいと思えます。



すぽーつあんぐる

最近の世の中「マサカ」ということが頻繁に起こっている。こんなことがあってよいのであろうかと新聞、テレビを見てつくづく感ずるのである。

スポーツの世界でもこの言葉を使うが、勝負の世界の「マサカ」には意外性の中にもさわやかさがあつて私は好きである。

昨年プロ野球のヤクルトが前半「マサカ」といわれながらさわやかに優勝したのを思い起こす。

シーズン前巨人軍が圧倒的に強いという下馬評であったが、それが終わってみればヤクルトがブツキガリの優勝であった。

このすばらしい結果の裏には次のような野村監督の野球哲学があることに気付くのである。

・勝った時は謙虚な気持ちをお忘れず、負けたときは敗因を深く究明して自戒する。

・勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし

・勝負のキメ手は単なる戦力や選手個人の力量、技術、練習量の多

寡ではなく考え抜く知力にある。頭を使い、知力を高めることによって感じる心も高まり、感性が豊かになる。豊かな感性の人が一流の選手ともなるんだと彼は言っている。

平成10年度ジュニア選手

育成強化指導者養成

確保事業について

この事業は二〇〇〇年とやま国体にむけて、活躍が期待される選手を対象としたもので、本市におけるスポーツ水準の向上に資することを目的とし、国体開催二年後に控え、仕上げの段階となりました。

今年には◆将来の展望になって、ジュニア選手を中心に育成強化を図る。◆指定は単年度だけではなく二〇〇〇年とやま国体まで継続する。◆合理的な指導や科学的トレーニングを導入し、公認コーチやスポーツドクター・学識経験者の有効活用を図る。◆指導者の資質向上を図るため講習会や研修会等を開き指導者の資質の向上に努めるなどの基本方針により本事業を進めるものである。

《スポーツドクター・アドバイス》

足首（足関節）の捻挫について

スポーツ中のけがで頻度の高いものの一つに足首の捻挫があります。足首の構造は足先を上にとらせた時には関節の骨同士が密着し、非常に安定性がよいのですが、足を下に向けた時は関節の骨同士にすきまができ、安定性が低下しています。その状態で内返しや外返しの力がかかりますと簡単に捻挫をすることになります。捻挫というと軽く考え治療を軽視しがちなことが多いようですが、捻挫と

いうのは足首を捻ったというけがの状況を意味しているにすぎず、足首の中の傷害程度を表わす言葉ではありません。実際、足首の捻挫をした人をよく調べて見ると、骨折をしていたり、靭帯が切れていたりとその程度は様々です。ですから、そのあたりをしつかり確かめておかないと、将来のスポーツ活動に支障をきたすことにあります。最初が肝心なのです。そこで捻挫をしたら是非次の二つのこ

とを行って下さい。一つはすぐその場でRICE療法を行うことです。RICEとは、R(Rest・安静)、I(Icing・冷却)、C(Compression・圧迫)、E(elevation・挙上)の略でけがをした足首を冷やし、圧迫、固定し、足を高く挙げることです。そうすれば、腫れや痛みも少なく、回復も早くなります。二つめは一両日中に必ず専門医を受診し正しい診断を受けることです。

また、捻挫ほど激しい外力でなにも拘わらず、急に急激な痛みを感じ、捻挫と誤解しやすい疾患もあります。

足首周辺の腱がずれるもの（腓骨筋腱脱臼）、これは外くるぶしの周辺に痛みがおきます。

余分な骨ができて、これが関節の間にはさみこまれるもの（関節遊離体、三角骨障害）、関節の後ろに痛みが出現します。

骨の一部がすでに分離していて、

高岡市民病院整形外科

山田 均

これが筋肉により急激にひっぱられるため痛みを出現するもの（外脛骨障害）、足の親指の付け根あたりで骨が隆起した部分に痛みがでます。こうした症状が繰り返されるようなら精密検査を受けるべきでしょう。

不幸にも慢性の不安定性が残ってしまった選手においてはテーピング、装具、靴の中に入れる特別な形のインソール（中敷）などで対処する必要があります。



ホープロ紹介

「1000年とやま国体」

をめざして



高岡市立
牧野中学校二年
新開 奈央
未央

彼女たちは、小学生の頃からすでに活躍している姉を目標に、小学一年生から少年剣道を始めた双子の姉妹である。5〜6kgほどの防具をつけ夏は汗にまみれ、冬は素足のつめたさに耐えながらの競技であるが二人はしんぼう強く一振り一振りに気迫をこめて練習に励んできた。小学校時代はスポーツ少年団剣道大会、道場連盟大会とともに同級生レベルでは無敵の成績を修めてきた。中学に入ってからも一年生ですでに高岡地区で二位を二人で獲得した。二年生と組んだ団体戦では常に先鋒、大将

として優勝に導いてくれた。二年生になった今年度は二人そろって北信越大会・個人戦に出場し、未央が三位入賞。奈央は県選二位で全中大会に出場し高松では、大分

県の三年生と対戦、堂々と戦い粘りに粘って延長三回までもちこんだが惜敗した。学校では二人とも、勉強にも生徒会執行部でも活躍し、部活では後輩の指導にも熱心な文武両道のがんばりやである。

現在さらさらには技を磨くため基礎練習を怠らず、又二〇〇〇年とやま国体強化練習にもまじめに参加し、来年は二人そろって全国大会への出場権を獲得し、上位入賞もめざしたいとがんばっている。

◆高岡市体育協会

研修センターの利用状況

大山町極楽坂に昨年の一月にオープンした研修センターは、一年経過し、冬期間のスキー関係者の利用が伸びております。今後は夏の期間においても立山山麓一帯のスポーツ・レクリエーション活動にも大いに利用してもらいたいものです。

平成10年度の主な行事

- 4月26日 前田杯バレーボール・ソフトテニス大会(中学の部)
- 4月26日 市長杯陸上競技大会
- 5月8日 評議員会
- 5月23日 創立50周年記念式典
- 6月21日 PL学園招待野球試合
- 7月11・12日 第51回高岡市民総合体育大会
- 8月8〜10日 第51回富山県民体育大会
- 9月12〜15日 第53回国体夏季大会(神奈川県)
- 9月下旬 前田杯バレーボール・ソフトテニス大会(一般の部)
- 10月24〜29日 第53回国体秋季大会
- 11月8日 高岡市駅伝競走大会
- 11月22日 富山県駅伝競走大会
- 11月下旬 第七回スポーツ医科学シンポジウム
- 12月6・7日 加盟団体役員研修会
- 平成11年 1月4日 新春武道稽古始め

野上流司選手(スキー)の活躍

高岡市スキー連盟は、本市から国体・インターハイなどの全国大会で活躍のできる選手の育成を目指し鋭意取り組んでおり、近年その成果が実りつつあるようです。

野上選手(芳野中、富山第一高在学)は強化により育った選手の一入で、全中大会をはじめインターハイ・国体に出場し、今や富山県スキー連盟の強化選手として北海道や海外遠征などに参加しており、高岡市スキー連盟期待の星である。

編◆集◆後◆記

「あすりと十一号」の発行は、五十周年記念誌の編纂に追われ、その上不手際もあり大部遅れて発行となりました。原稿を書いていただいた方々に大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。今年の五月二十三日に五十周年記念式典が催されますが、今回は記念事業の内容を特集しました。記念講演もありますので関係者各位多数のご参加を期待しております。